



して指導したり、さらに高めるための指導を中学校で行ったりするなど、より系統性をもった指導が可能となった。CAN-DO リストの共有化は、小中を一貫した瑞穂市の英語教育の方向性を明確にし、長期的な視点から、英語における4技能5領域の力を高めることにつながると考える。

### 3 内容を伝え合うことを重視した授業へ

学習指導要領では、小中高のすべての校種の目標に「言語活動を通して」という文言が明記されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するのである。この目標に向け、瑞穂市の小中学校では、必然性のある目的や場面、状況等を設定し、言語活動を充実させることで、内容を伝え合うことを重視した授業への移行を図っている。このような授業を、年間を通して行うことで、児童生徒に、思考力、判断力、表現力等が育まれ、身に付けた知識及び技能を活用し、言語活動に主体的に取り組む姿が見られるようになってきた。



### 4 指導力と英語力の両面から教員研修の充実を図る

英語教育を充実させるためには、教員の指導力と、実際に英語を活用する英語力の両面を高めていくことが重要であるという考えから、以下の2点の教員研修を実施した。

#### (1) 教員の指導力向上をめざした「外部講師による研修」

令和3年度は、文部科学省から山田誠志教科調査官、朝日大学から亀谷みゆき教授を招き、教員研修を行った。学習指導要領がどのように変わり、何が求められているのか、実際の授業はどのように行っていけばよいのか、評価はどうするのか等、現場に寄り添った話を聞くことができ、参加した教員の専門性を高めることにつながった。



#### (2) 教員の英語力向上をめざした「教員向けイングリッシュサロン」

教員の英語力をブラッシュアップさせることを目的とした「教員向けイングリッシュサロン」を夏季休業中に3日間実施した。専科ではない小学校教員も多く参加し、9名のALTと会話を楽しみながら、英語でのコミュニケーションに慣れ親しむことができた。日常的な英語表現を、授業でも自信をもって使用できるように、教員自身が英語力を高められるような研修を今後も継続して行っていきたい。



### 5 今後の予定 ～「英語のまち みずほ」の実現へ向けて～

瑞穂市では、確かな英語力の育成をめざして、令和4年度より市内すべての小学校を教育課程特例校とし、低学年から外国語活動を開始し、中学年より教科としての外国語科を実施するよう準備を進めている。低学年から英語に慣れ親しみ、中学年と高学年で言語活動の充実を図る。そして、中学校の英語教育を通して、コミュニケーションを図る資質・能力をさらに高める。このような小中を一貫した指導により、異なる文化や言語であっても互いを尊重し違いを認め合いながら、身に付けた英語力を活かし、夢を広げ未来を拓いていこうとする児童生徒を育成していきたい。